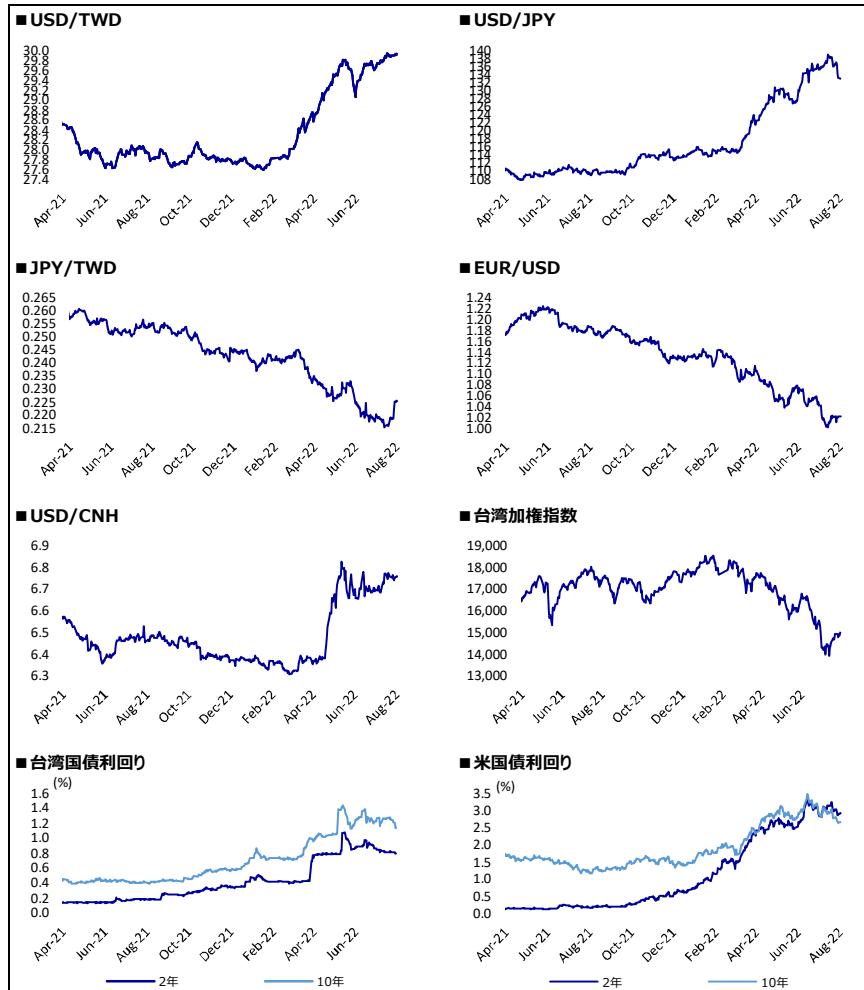


市場動向



先週の市場動向

■ USD/TWD

先週のドル/台湾ドルは上昇。週初7/25は29.940でオープン後、一時29.9を割り込んだものの、FOMCを控えて月末週ながら方向感なく、29.91付近で推移し、7/26も狭いレンジでの推移となった。7/27は台湾企業の配当金を海外へ送る動きが強まり、ドル買いが強まつものの、月末の輸出企業のドル売りから上値は重かった。7/28は前日のFOMC後のパウエルFRB議長の会見がハト派に受け止められドル安の展開となる中、一時29.885まで下落。しかし、外国人投資家の受取配当金を海外送金する流れからドルが買われ、29.94付近まで戻した。7/29はオープン後、荒い値動きで一時29.965をつけたものの、その後は引き続き配当金の海外送金から底値は堅く、29.95付近で推移。しかし月末の輸出企業のドル売りもあり、最終的に先週比0.1%ドル高台湾ドル安の29.938で先週の取引を終了。週間の外国人投資家の株式買い越し額は13.7億台湾ドル。

■ USD/JPY

先週のドル/円は大幅下落。週初7/25は136.22でオープン後、日経平均の下落につられて135円台後半まで下落したが、ロシアが欧州への天然ガス供給を制限すると発表しユーロ売りが加速し、136円台後半まで反発。7/26はFOMCの発表を控えてレンジで推移していたが、利上げへの警戒感から米金利が上昇すると136円台後半まで上昇。7/27はFOMCの発表を前に137円台半ばまで上昇。FOMCでは予想通り0.75%の利上げが決定したものの一部では1.0%の利上げを見込んでおり、発表直後は136円台後半に下落。その後のパウエルFRB議長が会見で冒頭にインフレを抑制を強くコミットすると一時137.45まで上昇するも、9月以降の利上げについてはデータ次第としたことからハト派に受け止められ、米金利の低下と共に136円台前半まで下落。7/28はパウエルFRB議長の会見を受けたドル売りの流れが継続。また、米Q2GDPが市場予想を下回り▲0.9%と二期連続マイナスになり、米景気後退から利上げペースが減速するとの見方が強まり、米金利の低下と共に134円台前半まで下落。7/29もドル安の流れが継続し、一時132.51まで下落。一巡後は133円台に戻したが、米6月個人収支・所得が予想を上回ったことからドルが買戻される134円台半ばまで上昇。その後は米金利の低下につられて下落し、最終的に先週比2.1%ドル安円高の133.22で先週の取引を終了。

今週の見通し

■ USD/TWD 予想レンジ：29.850-30.100

先週までは月末であり、輸出企業のドル売りから上値が押さえられていたものの、今週は月が替わっており、直近高値を試す展開となるであろう。

■ USD/JPY 予想レンジ：129.00-138.00

今週は米7月雇用統計等、重要な経済指標の発表を控えている。パウエルFRB議長が会見で今後の利上げについてデータ次第と述べており、経済指標の結果に大きく左右される展開となるであろう。先週は米GDPが二期連続マイナスのテクニカルリセッションとなっているおり、弱い指標が相次ぐ形になれば、ドル高の是正が進むであろう。

今週の予定

8/1 (MON)	米7月ISM製造業景気指数
8/2 (TUE)	
8/3 (WED)	米7月ISM非製造業景気指数、米6月製造業新規受注
8/4 (THU)	米6月貿易収支
8/5 (FRI)	台湾7月CPI、米7月雇用統計

(Source) Thomson Reuters, Mizuho Bank

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。当資料に記載された内容は、事前連絡なしに変更されることがあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず、無断で引用、複製することを禁じます。